

日韓共同理工系学部留学生プログラム報告 (2009年4月～2010年3月)

副島健治

1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。

1999年に本事業の第1期生の募集が開始された。富山大学へは本事業によって、2001年度(第2期生)4人、2003年度(第4期生)1人、2004年度(第5期生)1人、2006年度(第7期生)1人の配置学生(以下、「日韓生」とする)があった。そして、2009年度に2人の日韓生(第10期生)を予備教育生として本学留学生センターに迎えた。本事業は10年計画で開始されており、第10期生が最終期生ということになるが、「平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会」(2009年8月4日(火)、於：鹿児島大学)において、本事業は「第2次日韓プログラム」として継続されることが発表された。

「日韓共同理工系学部留学生事業」による本学配置の日韓生への予備教育、すなわち日韓共同理工系学部留学生プログラム(予備教育)を「日韓プログラム」と呼ぶこととする。

本学における日韓生の第2期生、第4期生、第5期生は本学学部をすでに卒業した。現在の本プログラムの学部在籍者は第7期生1人であるが、工学部の3年生として真面目に勉学に励んでいる。

2 2009年度の本事業による富山大学への配置について

2009年度における富山大学の理・工学部の日韓生の受け入れ可能数(各学科合計)は16人で、2名の配置があった。(表1)

表1 [2009年度 富山大学配置日韓生(第10期生)]

氏名	受入れ学部・学科
アン デ フワン (Ahn Dae Hwan)	工学部・電気電子システム工学科
キム テ ヒョン (Kim Tae Hyung)	理学部・物理学科

3 2009年度日韓プログラムのスケジュール

上の2人を迎え、富山大学における日韓生(第10期生)のための予備教育を実施した。

第10期生のための主なスケジュールは以下の通り。

2009年 9月30日(水) 日韓プログラム専門教科講師ミーティング

10月6日(火) 配置日韓生来日, 外国人登録, 国民健康保険, 銀行口座の手続き(市役所)等

10月7日(水) 日本語研修コースオリエンテーション, キャンパスツアー, 教科書購入
日本語プレイスメントテスト, 「日韓生のための生活オリエンテーション」

10月8日(木) 日本語研修コース開講式

10月13日(火) 工学部長表敬訪問

10月15日(木) 理学部長表敬訪問

11月18日(水) 「留学生と日本人学生との異文化交流パーティー」

12月18日(金) 口頭発表プロジェクト(日本語研修コース)「私の国」発表会

2010年 2月6日(土)～7日(日) ホームビジット・ホームステイ

2月16日(火) 口頭発表プロジェクト(日本語研修コース)「私の専門」スピーチ発表会

3月4日(木) 日本語研修コース修了式

4 日韓プログラムの概要

このプログラムは、日本語教育と専門教科、「日本文化」およびその他の特別指導からなっている。日本語・日本事情教育の部分については、日本語研修コース(中級)を部分的に受講する形で実施している。専門教科と「日本文化」は日韓プログラム独自の開講である。

日本語・日本事情教育においては、「日本語文法Ⅰ」「日本語文法Ⅱ」「日本語聴解」「日本語会話」「日本語文字・漢字」「日本事情」の科目の授業を実施した。専門教科においては、「数学」「物理」「化学」「科学技術日本語」「コンピュータ」「英語」の科目の授業を実施した。これら以外に「特別指導」の時間を設けた。

4.1 日韓プログラム(第10期生)の時間割

第10期生のプログラムにおける時間割、時間区分は次の通りである。

[時間割]

時限	(月)	(火) ^{注1}	(水)	(木)	(金)
1	日本語文法Ⅰ	日本語聴解	日本語文法Ⅰ	日本語文法Ⅱ	日本語文法Ⅱ
2	日本語文法Ⅰ	日本語会話	日本語文法Ⅰ	日本語文法Ⅱ	日本語文法Ⅱ
3	英語 ^{注2}	数学	日本語文字・漢字	化学	コンピュータ
4	特別指導	物理	日本事情	科学技術日本語	特別指導
5	「日本文化」活動等				

(注1) 平成22年1月12日(火)は月曜日の授業を実施。

(注2) 平成21年10月26日(月)3限目の授業は11月6日(金)4限目に実施。

[時間区分]

1限目	2限目	(昼休み)	3限目	4限目	5限目
8:45～10:15	10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00

4.2 「特別指導」について

4.1の時間割の通り、毎週月曜日4限目と金曜日の4限目を「特別指導」と位置付けて諸活動を行った。必要に応じて5限目も行った。

4.2.1 「特別指導」における「日本文化」活動

学内外から講師を招いたり、美術館を訪問したりして、日本文化に関するレクチャーあるいは実技指導の「日本文化」活動を行った。日韓生以外の日本語研修コースの留学生を中心に、広く参加を認めた。

2009年度は4回実施した。

- | | | |
|-----------|----------------|----------|
| (1) 日本文学 | 10月30日(金)4限 | (参加:17名) |
| (2) 邦楽 | 11月27日(金)4・5限 | (参加:11名) |
| (3) 茶道 | 12月11日(金)4限 | (参加:15名) |
| (4) 水墨画鑑賞 | 2010年1月8日(金)4限 | (参加:10名) |

4.2.2 「特別指導」におけるその他の活動

「日本文化」活動以外の特別指導として「ガイダンス」・「自主活動A」・「自主活動B」・「学習点検」等の活動を行った。

「自主活動A」は、基本的に学内での自主活動で、日韓生の自主的な学習等のほかに、富山大学中央図書館探索、日本映画鑑賞、スピーチ指導などを行った。「自主活動B」は、引率を伴う学外施設の見学で、本年度は郷土博物館、佐藤記念美術館、富山市科学博物館、富山市天文台（いずれも富山市内）を訪ねた。「学習点検」では、日韓生の学習状況を把握しコンサルティングや具体的な学習指導等を行った。

また、日韓生は日韓プログラムの特別指導とは別に、日本語研修コースの特別指導にも参加した。

以下、具体的に実施した日を示す。

「ガイダンス」2009年 10月9日(金)

「自主活動A」2009年 10月16日(金), 10月19日(月), 10月26日(月), 11月2日(月), 11月9日(月),
2010年 1月12日(火), 1月18日(月), 1月22日(金), 2月5日(金), 2月8日(月),
2月12日(金)

「自主活動B」2009年 11月30日(月), 12月14日(月),
2010年 1月25日(月)

「学習点検」 2009年 10月26日(月), 11月16日(月), 12月7日(月),
2010年 1月4日(月), 2月1日(月)

日本語研修コース特別指導（「スピーチ発表会」等を含む）

2009年 10月23日(金), 11月13日(金), 12月4日(金), 12月18日(金), 12月21日(月),
2010年 1月29日(金), 2月15日(月), 2月16日(火)

その他 2009年 11月20日(金)

4.2.3 他大学との交流

12月18日(金)の日本語研修コース口頭発表プロジェクト（「私の国」発表会）は、金沢大学配置の日韓生と合同で行った。口頭発表後は、留学生センター1階談話室にて両校の日韓生の交流の時間を持った。

金沢大学の日韓生との交流は2006年度の日韓プログラム（第7期生）で行われており、今回で2回目である。

5 日韓プログラム担当者

プログラムの内容の担当者は以下の通りである。

▶[日本語・日本事情] (科目名/担当者)

「日本語文法Ⅰ」/中河和子・高島智美

「日本語文法Ⅱ」/松岡裕見子・副島健治

「日本語聴解」/加藤扶久美

「日本語会話」/副島健治

「日本語文字・漢字」/濱田美和

「日本事情」/出原節子

▶[専門教科] (科目名/担当者)

「数学」/吉田範夫(世話教員)・渡邊義之・阿部幸隆・菊池万里・古田高士・幸山直人・村川秀樹

「物理」/石川義和(世話教員)・桑井智彦・清水建次・兼村晋哉

「科学技術日本語」/宮武滝太

「化学」/宮武滝太

「英語」／土田千津子

「コンピュータ」／松岡裕見子

▶ [日本文化] (科目名／担当者)

「日本文学」／呉羽長

「邦楽」／井上雅喜代・遠藤雅楽佐保・小谷見子

「茶道」／津澤宗美

「水墨画の基礎知識と鑑賞」／富山県水墨美術館職員

▶ コーディネーター

副島健治 (留学生センター)

6 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

6.1 構成員

日韓共同理工系学部留学生事業の本学におけるプログラムを円滑に遂行するための準備などを行う「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下「日韓WG」とする)は2001年4月に立ち上げられ、若干のメンバーの交代を経て現在に至っている。2009年度のメンバーは石川義和(理学部, 日韓WG長), 宮武滝太(工学部), 加藤扶久美(留学生センター), 副島健治(留学生センター), 飯野るみ子(学生支援グループ留学支援チーム)の5人で構成され、副島がコーディネーターを務めている。

6.2 日韓WGの活動

2009年度は以下のように、日韓WGのミーティングが4回持たれた。

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第23回ミーティング

日時：2009年5月26日(火) 15:00～16:20, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

[報告事項]

▶日韓プログラム協議会と推進フェア開催について

▶日韓生配置を受けて

a 日韓生のための予備教育(専門科目)について, b 日韓プログラム時間割, c 日韓生のための予備教育の「英語」と「コンピュータ」講師, d 「日本文化」講師, e 「日本文化」実施日程調整表

[審議事項]

▶昨年度(2008年度)の日韓共同理工系学部留学生プログラム総括

▶今年度の日韓プログラム協議会と推進フェア開催の参加者

▶今年度の推進フェアに向けて アイデアなど

▶その他

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第24回ミーティング

日時：2009年7月24日(金) 9:30～10:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー, 張勁*, 石原外美*, 朝野真* (*は推進フェア参加者)

[報告事項]

▶今年度の「日韓プログラム協議会」と推進フェア開催, 参加者について

▶日韓生配置を受けて, 今年度の日韓生予備教育について確認

a 日韓生のための予備教育(日本語・専門科目, 時間割), b 「日本文化」

[審議事項]

▶金沢大学の日韓生との交流について

- ▶今年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶推進フェア後の報告と反省会等
- ▶第10期生の予備教育（今年度の後期）について
 - 専門科目授業担当者への説明会（a 時期, b 場所, c 内容）
- ▶その他

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第25回ミーティング

日 時：2009年11月18日（金）13:00～14:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

[報告事項]

- ▶今年度の「日韓プログラム協議会」について
- ▶日韓プログラム「推進フェア報告会」について
- ▶本年度配置日韓生と予備教育について
- ▶来年度の配置に関して

[審議事項]

- ▶今年度の日韓プログラム推進フェア（「フェア報告会」も含む）の反省
- ▶来年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶金沢大学の日韓生との交流について
- ▶日韓プログラム「特別指導」における学外施設の見学について
- ▶その他

○日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング第26回ミーティング

日 時：2010年1月19日（火）16:30～17:30, 場所：留学生センター長室

参加者：日韓WGメンバー

[報告事項]

- ▶第7期生と本年度配置の第10期生の様子
- ▶金沢大学の日韓生との交流（12月18日（金））について
- ▶来年度の配置に関して

[審議事項]

- ▶来年度の日韓プログラム推進フェアに向けて
- ▶今年度日韓プログラム予備教育の終了（修了）について
- ▶その他

6.3 日韓WGのその他の活動

○推進フェア直前最終打ち合わせ

日 時：2009年9月3日（木）9:30～10:30, 場所：学生相談室（学生支援グループ事務室隣）

○推進フェア報告会

日 時：2009年9月9日（水）11:00～12:30, 場所：理学部2階小会議室

参加者：推進フェア参加者, 日韓WGメンバー, 学生支援グループ長

7 平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業は10年計画の事業ということで、今年度で一旦の区切りがつけられ、来年度より「第2次日韓プログラム」に入る。この第2次事業における第1期生筆記試験合格者150人と保護者およびその関係者を対象として、「推進フェア」が開催された。

「推進フェア」というのは、理工系学部を擁する日本の各国立大学がソウル市内に設定された会場に

ブースを設け、日韓生候補者およびその関係者に対して自大学を紹介し配置希望を促すものである。

日本から37の国立大学が参加した（資料展示のみの10大学を含む）。

日時：2009年9月6日（日）9:00～17:00

場所：国立国際教育院（所在地：韓国 Seoul 特別市鐘路区東崇洞 181）

主管：韓国国立国際教育院，日本国文部科学省，日本大学連合会

本学からは石原外美（工学部機械知能システム工学科），張勁（理学部生物圏環境科学科），朝野真（学務部学生支援グループ留学支援チーム）の3人が参加し，本年度富山大学配置予定の日韓生（第10期生）の安大煥^{アンデフアン}君も手伝いに来てくれた。

本年度は富山大学を紹介するデザインの団扇を準備して，会場で日韓生候補者やその保護者等に配布した。

推進フェアの日程は，午前中は全体に対する説明会が講堂で行われ，昼食をはさみ，午後は本事業の第2次プログラムの第1期採用予定者を対象として，各参加大学のブースにおいて通訳を介して説明が行われた。本学のブースへは13人の訪問があった。

8 おわりに

日韓共同理工系学部留学生事業は，開始後10年を経て，次年度から「第2次」の段階に入ることになった。今後日本の国立大学における本事業の重要性は高まり，さらに各大学の日韓プログラムの充実が求められると思われる。

日本の各国立大学への日韓生の配置は，日本留学希望生徒が「志望調査」でどの大学を望んだかによりほぼ決定されるので，受け入れようとする日本の国立大学は，自大学が留学希望者の希望大学として選ばれるように努力することが求められるという現実がある。これまでも富山大学としても，日韓WGを中心として本事業による韓国人留学生が配置されるように努力してきたが，いっそうの努力が必要であろう。

今年度は3年ぶりに本学への2名の配置があり，本報に詳述したように出来る限りの充実したプログラムを実施した。今後も日韓生の配置があるように積極的に努力し，充実したプログラムを提供していきたい。